



「スポーツの日」
1966年(昭和41年)に「体育の日」として制定され[1]、制定当初から1999年(平成11年)までは10月10日、2000年(平成12年)以降は10月の第2月曜日とされていた。2018年(平成30年)6月20日に国民の祝日に関する法律(祝日法、昭和23年7月20日法律第178号)が改正され、2020年(令和2年)1月1日に施行されたことで、体育の日のが「スポーツの日」に変更された。

同法でスポーツの日の趣旨は「スポーツを楽しみ、他者を尊重する精神を培うとともに、健康で活力ある社会の実現を願う。」とされている。

ネズミ家屋侵入の事件録、 床下通風口の3センチの隙間から入り込む

「カタカタ、コトコト」。冬のある寒い晩、大阪市内に住むAさんは天井からの物音に気付いた。ネズミが入り込んだのではないかと思い、付き合いのある工務店に「なんとかありませんか」と相談を持ちかけた。

工務店は殺鼠剤入りの餌で駆除しようとしたものの、数日たっても足音がやむ気配がない。そこで、専門の駆除会社に依頼することにした

駆除会社が天井裏をのぞくと、フンが落ちており、ネズミがいることは明らかだった。侵入経路を特定するために家の周囲を点検し、床下通風口の網がずれて約3センチの隙間ができている箇所を見付けた。その他には隙間が見受けられなかったことから、ここから侵入したと考えられた。

大都市でこうしたネズミに関する相談が増えている。相談窓口の存在が広く知られるようになったこともあるだろうが、ネズミにとって一般の住宅が住みやすくなってきていることが背景にある。

【徹底的に穴を塞いで侵入路を断つ】

住宅に住み着くネズミは3種類。特に問題になっているのがクマネズミだ。「ビルなどで繁殖していたが、ビルの衛生管理が進んだため、気密・断熱性の向上で暖かくなった住宅に移動し始めた」と駆除会社大手、イカリ消毒の谷川力技術研究所長は指摘する。

発生年月	2000年1月
発生場所	大阪市
状況	築10年の木造2階建て住宅の1階和室で就寝中の住まい手が、天井から「カタカタ、コトコト」という物音に気付く。この音が数日たってもやまず、キッチンに置いていたゴミ袋が食い破られたため、工務店に「なんとかしてくれ」と相談。工務店では殺鼠剤入りのえさを置いたが、なかなか足音がやまず、専門の駆除会社に依頼することにした。
原因	駆除会社が調査したところ、天井裏にネズミのふんを発見。床下通風口の網が偏って取り付けられていて、約3cmの透き間ができており、ここから侵入して壁づたいに天井裏に入ったと推定された。
対策	家の中に置いていた生ゴミをプラスチック製のふた付きのゴミ箱に入れるようにし、食べ物も容器に入れて露出しないようにした。そして、出入り口となっている透き間を金属パネルでふさいだ。

体の大きさにもよるが、2〜3センチの隙間があれば簡単に潜り込んでしまうらしい。ベニヤ板や石膏ボードなど比較的柔らかいものだったら鋭い歯で穴を開けてしまうので、戸袋内や通気口など住宅の至る所から侵入する恐れがある。

いったん侵入すると、壁の内側や天井裏などに巣を作る。動き回る足音がうるさい他、ふん尿による臭いやシミといった害が生じる。

ネズミに付いていたイエダニが人間を刺したり、最悪の場合にはパストなどの病原菌を移したりもする。

また、電線をかじって火災の原因となることもある。東京消防庁によると、都内だけで毎年10件程度の火災が起きている。

厄介なことにクマネズミは用心深い。「殺鼠剤入りの餌にはあまり興味を示さないため、決め手となる駆除手段がない」と、東京都大田区生活衛生課の宇都木憲三主査は話す。そこで対症療法ではなく、抜本的な対策が必要になる。

ネズミは餌を求めて動き回るので、家の中には食料や生ゴミをむき出しのまま置かないことが大切だ。また、巣の材料となる紙くずや布きれなども片付けておく。ネズミが住みづらい環境をつくることで、外に出ていくように促す。

ネズミがいなくなったことを見計らって防鼠工事に取り掛かる。穴という穴を徹底的に塞ぐ。「亀甲金網を丸めて隙間に押し込む方法なら、通気が必要な箇所にも使える」(谷川さん)

大きな穴には金だわしを丸めて押し込んでもいい。トウガラシ入りのパテを使うのも有効だ。工事後は念のために、ネズミ捕り用の粘着シートや捕獲わなを仕掛けておく。

新築時やリフォーム時には、ちょっとした隙間で簡単に入り込むことを念頭に置いて、不用意に隙間を作らないような施工を心掛けることが大切だ。

元記事:日経XTECHより

第55回ウォーキング 今月もウォーキングにお付き合いください

三成 哲也の

ウォーキング 日誌



9月21日 お彼岸のお墓参りウォーキング

9月の下旬にかかろうとしているが秋の気配は一向に感じない。
今日も朝早くに自宅を出発して叔父といとこが眠っている霊園周辺を散策。まだ薄暗い15時30分に出発し自宅を出発。

鎌倉街道、清水橋の信号を渡って野庭方面に向かう。坂の途中で善行寺の法語が掲げられている。

月単位で新しく更新される。今月は「人は自分の不幸に敏感であり幸せに鈍感である」確かにそうだ、なぜ自分だけがこんな目にあわなければいけないのだ、かと思うと幸せであることをごく当たり前に考えている自分がいる。なぜ？ではなくて不幸に陥るのはそれなりの理由がある。ちゃんとやるべきことをやっていないから不幸に陥るのだ。物事には「準備」が必要だ。パスカルの「幸運の女神は用意された心の中にのみ宿る」とどこかしら共通点があるのではないか。かくゆう私も「用意された心」がなかったばかりに何度も

貧乏神を引いた経験がある。これからの自分への戒めにしよう。

この野庭方面に向かうだらだ坂が結構堪える。右手に見える消防署辺りまで続く。ここまでくると後は当分平坦、天谷大橋の下のパティンティングセンターには子供たちが小さい頃はよく連れて行った。自分も1ゲームくらいは試してみるが、なかなか当たらず、子供たちにお手本を見せるまでには至らなかったのを覚えている。

天谷大橋を渡ると左手に「ブックオフ」、ブックオフが見えると早く出張買取を頼まなくてはと思うが整理ができていないのが現状だ。いつも今度の休みににはと思うがなかなかできない、出張買取を頼もうと思ってからもう2年近くになる。

この舞岡に続く環状線沿いはファミレス、焼き肉屋が沢山ある。「味の民芸」から始まり日限地蔵の手前の焼き肉屋まで焼き肉屋が他のお店を挟んで並んでいる。これでは焼肉を食べに来たお客様もどちらに入るか迷うのではない。真ん中に挟まれたお店は撤退したようで看板が消されている。確か春先まではてんぶら屋さんが入っていて、そのあとお蕎麦屋さんが入っていたようだが、お蕎麦屋さんの看板はもうない。

お蕎麦屋さんの前に入っていたてんぶら屋さんは、味は少し濃いめではあったが、結構私は好きだった。

日限地蔵まで足を進めたのでお墓参りの前に参拝していくことにする。坂をのぼりきると左手に本堂、右手にお地蔵さんが座っている。脇にある札には、自分の悪い部位に水をかけ、たわしで洗ってあげると痛みが消えると記してあったので、お地蔵さんの頭に沢山の水をかけた。

霊園は日限地蔵の先にある。いつものコンビニで買ったビール、コーヒー、線香をお供えて霊園を後にする。このお墓参りも月に1回ペースとなり、いつしかウォーキングコースの定番となった。

この後、今春孫娘の受験でお世話になった永谷天満宮にもお参りした。再来年は2番目の孫娘が受験を控える。今年同様再来年も学問の神様であるこの永谷天満宮に何度も足を運ぶことになるだろう。何の手助けもできない爺ができるのは合格祈願のお参りがせいぜいだ。

再来年もここ永谷天満宮に足繫く通おう。